



茨城ワイズメンズクラブ
2020年度-2021年度
6月報 Vo | .154

強調月間テーマ

評価

THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI CHARTERED 2006



国際会長主題.....「命の川を信じよう」
アジア太平洋地域会長主題.....「変化をもたらそう」
東日本区理事主題.....「変化をたのしもう！」
関東東部部長方針.....「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」
茨城ワイズ会長主題.....「楽しくやれる方法を考えよう」

<6月例会プログラム>

と き:2021年6月11日(金)
19:00~21:00

と ころ:オンライン開催(zoom)

司 会:熊谷 光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

ワイズソング:オンライン時はスキップ

ワイズ信条:オンライン時はスキップ

- 1、自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1、青少年のために YMCA に尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう
- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとろう
- 1、会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・祈祷:

協議:

「来期計画」他

ハッピーバースデイ&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:

茨城YMCA報告:大澤 篤人

閉会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

★巻頭言★「YMCA3年目を迎えて」

牛久センター副主任

川又 淳史(あおだいしょう)

私が「わいわい児童クラブ牛久」に勤務してから1年9ヶ月。毎日、身体いっぱい子どもたちと「わいわい」過ごしている。ドッジボール、鬼ごっこ、オセロ、時には互いにちょよちょしあったり…。休校日の1日保育で、男の子と2人で、千葉の博物館へ行ったり、釣りを子どもから教わったりしたこともあった。おそらく、学校の先生でもできない経験だろう。

以前は、M市教育委員会の社会教育主事として、少年自然の家に勤務し、庶務や施設のメンテナンスもしつつ、たくさん子どもたちと関わった。「あおだいしょう」というあだ名も当時名付けられた。しかし、どれほど関係を築いても、数日でさようなら。子どもたちを深く知って、導くことはできない。立場上、「子どもにとっての最善」を追求できないことも多々あった。「健全育成をするなら、子どもたちにもっと長い時間をかけて、じっくり関わり続けたい」それを思い続け、紆余曲折を経て、茨城YMCAの門を叩いた。

ここでは学校や自然の家で見せる子どもの姿とは違い、気遣いも無用、ストレートに向かってくる子どもたち。時には子どもの言動に傷つき、腹が立つこともあるが、それでも少ししたら「あお〜」と甘えてくる子どもたちに、「上手だよな…」と分かりつつ、つい許してしまう(私の性格をみんな分かっている)。しかし、ここに来てから、大きい声で笑っ

☆今月の聖句☆

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

ペテロの手紙(1)4章10節

たり、ちょっかいを出し合ったり…本来の自分を取り戻せた気がする。子どもの力は強い。

昨年の休校期間中、ある男の子と毎日「けんか」をしていた。嫌なことがあると、私に手を出す。私が叱りつけると、彼は大泣き。私もパートから正職員になる過渡期で、心の余裕がなかった。それでも、翌朝には朝「あおだいしょう！」と笑顔で呼んでくれた。彼の特性を理解し、身体をぶつけ合って、存分に遊んだ。その男の子とは、お互いの苦手を補い合うくらいの仲になった。入職して初めてのキャンプで、偶然一緒の班になり、夜には布団を並べることができた。私がリーダーサインを書いて渡したお返しにと彼が書いてくれたサインを今でも大切に残してある。

このような関係性を子どもたちと持てるのは、おそらく全職種を見ても、今の時代は学童保育の支援員でなければ難しいと思う。そして、YMCAの「リーダー」だからこそ、子どもたちと素で交わることができるのではないか。

私が小学校に入ったのは、ミレニアム「2000年」。それから20年の間に、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化した。学校のパソコン室でパソコンに年1回触れるかどうかの時代から、小学生1人に1台、タブレットが配られる時代になった。身体を動かすことを伴った活動よりも、動画を見ているのが今時の子どもは楽しいのだとか。学校からの帰りに、知らない道や森の中を探検したり、放課後におつかいに行ったりした時代も、集団下校や学童保育の普及で今の子どもたちはその魅力を知らない（だからこそ、それに代わる魅力を学童保育で実現したい）。算数の宿題を解いていた子どもから「お釣りがあってなあに？」と聞かれたこともある。私の子どもの頃には、長い休みに友だちや先生へ手紙を書いたこともあったが、今は家族など個人情報伝えることは望ましくない時代になった。どんなに親しくても、互いの家も知らないという。安心・安全ではあるが、管理が強まり、人情

味や趣やゆとりがない社会…。私は、子どもたちと大した歳の違いはないと思っているが、それでもジェネレーションギャップを痛感する。私が時代や社会に合わせるべきことも多々ある。しかし、時代や社会での流れがどんなに傾いても、守り続けなければならない「本質」が存在する。その「本質」を伝える役割が教育者・保育者ではないか。そして、家庭や学校では伝えられないことを伝えるのが「学童」の役割であり、魅力ではないかと思う。

大学時代には、子ども会（堀の内セツルメント）の一員として、様々な地域・年代の子どもたちと関わった。縁あって、小学校でのボランティア活動にも没頭した。つらい出来事もあった。泣いて別れた子どももいる。約10年間の子どもとの関わりは、決して楽しいことばかりではなかった。しかし、これまでに出会った子ども1人1人との出来事1つ1つが、私を大きくしてくれた。茨城YMCAに来て、牛久やつくばの子どもたちとの関わりの中で、さらに私は成長させられていると実感する。私が子どもに伝えている以上に、気づかされていることがとても多い。相手は私に教えている自覚はないだろうが、子どもは私にとって「先生」であり、リーダーにとっての「リーダー」なのかもしれない。だからこそ、私は、せめてもの「お返し」に、子どもたちと大いに遊び、語り、刺激し合う関係であり続けたいと考えている。

4月より「副主任」を拝命した。保育も事務作業もこれまでの経験を活かしつつ、常に主体的に学ぶ気持ちを持って、適切な業務の執行に邁進してまいりたい。



【茨城クラブ5月例会報告】

5月例会は、14日に3人での少し寂しいzoom開催となりました。

ゴールデンウィークの過ごし方をめいめいに報告しつつ、先日開催した茨城YMCA総会報告を題材に、次年度以降のワイズの活動指針について話し合いました。昨年度の茨城YMCAのウェルネス事業においては、密を避けたプログラムとして、熊谷会長のサポートのもとサイクリングプログラムが計画されました。春先の緊急事態宣言に伴いプログラム自体は中止となりましたが、今年度以降にその準備は引き継がれました。また既報のとおり、つくば市内において今年競売物件を取得し、こちらの施設の活用についてワイズも参画して検討していくこととなりました。保育園や児童クラブはもとより、乳児園や障がい児・者の就労支援施設、孤独出産施設、関東地区のYMCAの研修施設、フリースクールなどの案が出され、これより具体的な計画策定がはじまる予定となっております。



ワイズメンズクラブとして、これからの茨城YMCAの発展にどう関わっていくか、ワイズメンの知見をどう生かしていくか、討議を続けております。

(書記 村田)

5月例会（リモート開催）出席状況

会員：3名（熊谷、村田、柳瀬）、メネット：0名、
スタッフ：0名、リーダー：0名、ゲスト：0名、
出席総数：3名、在籍者会員数：9名、会員出席率：
33%

【事務報告】

会計報告（5月7日～6月10日）

前月繰越金	12,977
会費	62,000
次月へ繰越	74,977

ワイズメンのみなさまにおかれましては引き続き会費の前納について、ご協力を賜りたく願います。

(会計 柳瀬)



【茨城 YMCA 報告】

5 月の報告

- 7 日 牛久センターお泊まり会#1 (延期)
- 7 日 中期計画委員会中間発表#1
- 8 日 牛久センターお泊まり会#2 (延期)
- 8 日 中期計画委員会中間発表#2
- 10 日 第 200 回記念 早天祈祷会
- 11 日 北関東ミーティング
- 11 日 野外担当者会
- 12 日 国際ミーティング
- 12 日 中期計画委員会
- 15 日 障がい児者自立支援「たんぽぽクラブ」
(中止)
- 18 日 取得地 (旧庄司医院) 整備チームミーティング
- 22 日 茨城 YMCA 総会
- 24 日 リソースモビリゼーションチームミーティング
- 25 日 主任会
- 26 日 プール指導者研修
- 26 日 取得地 (旧庄司医院) 整備
- 28 日 取得地 (旧庄司医院) 整備
- 29 日 未就学児デイキャンプクラブ「わんぱくクラブ」
- 29 日 ウェルネス運営委員会
- 31 日 職員礼拝・職員会

6 月の予定

- 1 日 牛久センター職員礼拝・職員会
- 5 日 小学生デイキャンプクラブ「つくわいクラブ」
- 7 日 早天祈祷会
- 12 日 高学年デイキャンプクラブ「トムソーヤ」
- 13 日 学童保育指導員学校
- 16 日 リソースモビリゼーションチームミーティング
- 17 日 中期計画委員会
- 19 日 障がい児者自立支援「たんぽぽクラブ」
- 26 日 茨城 YMCA 音楽祭

(連絡主事 大澤)

【編集後記】

他の YMCA のことを恥ずかしながらよく知らないのに、それが普遍的なものなのか茨城特有のものなのかはわかりませんが、茨城 YMCA のスタッフさんもボランティアリーダーとして集う人たちも、はたまたワイズのみなさま (人生の大先輩を前にしてたいへん失礼なことを言うのは承知ですが、、、) も、完全無欠のスーパーマン (ウーマン) という人はほとんどいないように思います。みんなそれぞれ、挫折した経験を抱えていたり、欠落した部分があったりするものです。もちろんわたしもそれは同じです。ただ、だからこそその優しさというか、お互いを思いやる気持ちに溢れているところが、なによりの茨城 YMCA らしさであり、わたしがこの場所が好きないちばんの理由になっています。ひとはみな完全でないからこそ、助けあうものだし、補いあうものなのでしょう。このカラーを忘れなければ、茨城 YMCA は人を惹きつけ続けるだろうし、もっともっと活動を大きくすることもできると思います。新しい拠点の取得がこれを加速させることを願っています。

(書記 村田)

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク 決シテ瞋ラズ イツモシヅカニワラッテキル 一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ アラユルコトヲ ジブンヲカンジョウニ入レズニ ヨクミキキシワカリ ソシテワスレズ 野原ノ松ノ林ノ蔭ノ 小サナ萱ブキノ小屋ニキテ 東ニ病氣ノコドモアレバ 行ッテ看病シテヤリ 西ニツカレタ母アレバ 行ッテソノ稻ノ束ヲ負ヒ 南ニ死ニサウナ人アレバ 行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ 北ニケンクウヤソショウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイヒ ヒドリノトキハナミダヲナガシ サムサノナツハオロオロアルキ ミンナニデクノボートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ サウイフモノニ ワタシハナリタイ 宮沢賢治 (青空文庫より)」 そういう者に私もなりたいけれど・・・なかなかできません。

(会長 熊谷)